

タカラモノ

ニュース
vol.16

宮畑のミステリーがすごい！

宮畑遺跡史跡公園「じよーもぴあ宮畑」

ほったてばしらたてもの
復元された掘立柱建物(縄文晩期)
直径90cmの柱を用いた建物。
復元に用いたクリの木の樹齢は100年を超え、重さは3t以上もある。

宮畑のミステリーがすごい!

二〇二六年五月下旬。ここ数年この時期に時折、初夏と呼ぶには暑すぎる日がやってくる。その日も、そんな季節を間違ったような日曜日だった。

福島市岡島にある縄文時代の遺跡「宮畑遺跡を整備した公園」じよーもびあ宮畑ではこの日「縄文鍋まつり」が開催されていた。縄文人が食したであろう、鹿肉とクリや根菜などを海水を煮詰めてつくった塩だけで味付けした鍋料理を振る舞う催しである。他にも、弓矢や火おこし、勾玉づくりなど、縄文時代を体験できるコーナーや、フリーマーケット、キッチンカーによる飲食ブースなどもあり、公園内は多くの史跡ファンや家族連れでにぎわっていた。

この同じ場所に約四〇〇年以上前の人々が暮らすムラがあったのだ。ムラ跡からは、四十棟を超える竪穴住居が検出されているが、その約半数が焼かれていた。これだけ多くの焼かれた住居跡が見つかったムラは、全国どの縄文時代の遺跡にも例がない。さらに直径九十センチメートルもの柱を埋めた柱穴も発見され、巨大な掘立柱(ぼったてばしら)建物が円形に配置されていたこともわかった。しかもこの「焼かれた家」は「巨大柱」の時代には、約二〇〇〇年の開きがある。なぜ、四〇〇〇年前の宮畑のムラ人たちは半数の家を焼き、二〇〇〇年前の宮畑のムラ人たちは巨大な柱を建てたのか。考古学的に様々な検証がなされたものの、この謎にはいまだ答えが出ていない。

「謎を解きたい」。その思いに駆られ、遺跡やまりの「関わる人々」に話を聞いてみた。

「宮畑遺跡史跡公園」じよーもびあ宮畑
職員 高橋 楓さん

「今日もたくさん家族連れのお客様が来ていますが、平日もほぼ毎日、どこかの小学校の児童さんたちが見学に来るんですよ。ちよと六年生で縄文時代について勉強するらしいので、直接見ることができて、体験もできる遺跡がある福島市の子どもたちは恵まれていますよね。復元された竪穴住居に入ったり、火おこしに挑戦したり。子どもたちの『ウオー』って感動する声を聞くとうれしいですね。実は私も、小学校五年生から中学二年生まで、『宮畑縄文探検隊』に参加



高橋 楓さん

加していたんですよ。市から学校に来た募集チラシを見ておもしろそうって思ったのがきっかけでしたが、いろいろ体験したりイベントに参加したりするうちにすっかり遺跡にはまっています。大学も文化学科で遺跡の発掘をしていました。二〇二五年八月に宮畑遺跡が史跡公園「じよーも



「縄文時代を身近に感じられるユートピアのような場所」から名付けられた



縄文鍋まつりでふるまった300食の「縄文鍋」は1時間ほどで完売となった



復元された竪穴住居(縄文中期)
中期の家46棟のうち22棟が焼かれていた

手紙の絵巻が展示してあるでしょう。あれはもちずり学習センター利用団体の絵手紙の会のみなさんが縄文時代の生活を想像して描いたものなの。いつか、私たちの孫の世代かそのあとの世代が謎を解明してくれるでしょうけど、それまではこのワクワクを楽しみましょうよ」



紙透 さちさん

大変じゃないかって? いいえ、地域の方々の交流を通じて宮畑遺跡の活動にも関わられましたから。驚きましたよ、自宅の目の鼻の先に考古学上の大発見といわれる遺跡があるなんて。あの青森の三内丸山遺跡に匹敵する大遺跡なのよ。福島の人たちは「ついてもついても百億たりPRRしたりしないのかしら。もったいない。」

謎? 謎は謎のままでもいいんじゃないかしら。いろいろ想像するのはワクワクして楽しいわよ。おひび、じよーもびあ宮畑の体験学習施設「じよーもびあ」に絵

じよーもびあ・遺跡の案内人
篠木 明さん・美津枝さん夫妻

「ボランティアで遺跡見学や火おこし、弓矢などの体験サポートをしています。じよーもびあ宮畑がオープンしたときからです。もともと歴史が好きで、特に古事記や日本書紀の時代に興味がありました。縄文時代はさらに遊りますが、市が案内人を募集していると知って応募してみようと。えっ、夫婦で応募したのって? いいえ違います」



篠木 明さん 篠木美津枝さん

「私は県の歴史資料館に勤めていたこともあって、歴史は好きだったんですよ。遺跡の案内人募集のチラシを見て、いいなあ、応募してみようかなあ、って大事にこつておいたんですよ。思い切って主人に相談してみたら『えっ、オレも?』って、『えっ?』って」

「案内人になってからも、活動は別々です。夫婦でやっていると他の方と違う」と言ったら、体験で作った土偶が家に置いてあるんですよ。最近市民劇団を立ち上げたばかりなんです。いつかこの公園を野外劇場に見たいって、演劇を上演したいですね。もちろん舞台は縄文時代で」

「この『じよーもびあ』の音響効果も素晴らしいんですよ。一度、太鼓を叩いて全国を旅している青年がここで叩かせてほしいって訪ねて来たんですよ。あの音と迫力は感動しました。音楽イベントなども、遺跡を訪れてもらうきっかけとしていいんじゃないかな」



子どもたちに火おこし体験を指導するじよーもびあ遺跡の案内人のみなさん

「びあ宮畑」としてオープンすると聞いて、「ここに戻ってきました。好きなんですよ。宮畑遺跡が。謎ですか? 燃えにくい土屋根の竪穴住居を焼いたり、直径九十センチメートルの柱を立てたり、なぜ、わざわざ労力のいることをしたんでしょう。ですが、宮畑遺跡からは土器の修理や、じりを装着する際の接着剤として使われた天然アスファルトや、ケジラの骨なども発掘されているんです。天然アスファルトは新潟や秋田など日本海側で産出されたもので、すし、クジラは太平洋沿岸で捕獲されていました。宮畑の縄文人はとても広い範囲で交易していたんですね。その情報網や知識、行動力は私たちが縄文人に対して持つイメージをはるかに超えています。二つの謎についても、私たちの想像を超えた答えがあるに違いありません。

じよーもびあ活用推進協議会
会員 紙透 さちさん

「今日は『縄文鍋』を作りに来たんですよ。はい、もちずり学習



体験学習施設「じよーもびあ」縄文時代の暮らしや出土品の展示室と体験工房などがある

焼けた家跡

「じよーもびあ」二階エントランスの床下に展示されている焼かれた竪穴住居跡

露出展示棟(縄文後期)発掘調査で見られた本物の土器をそのまま展示している

しゃがむ土偶(縄文後期、国重要文化財)福島市上岡遺跡(飯坂町)から出土。 「じよーもびあ」で展示されている。

幼児の墓(縄文晩期)掘立柱建物の外側には幼児のお墓がまともに見つかっていない。お墓には土器が用いられ母の胎内に戻る願いが込められていた。

縄文鍋まつりで弓矢体験を楽しむ子どもたち

